

## 「私、失敗したので」

M4 陳詩瑜

皆さんにとって、今までの人生で一番の失敗は何ですか？

実は、私は、大学四年生の最後のテストで、半分以上の単位を落として退学させられてしまったことがあります。あれは、卒業式の一か月の前のことでした。

大学に入学してからの成績はトップとは言えませんでした。が、順調に一つ一つの単位を取って、社会に出るまであと一歩のところ、私は、だんだん将来のことに迷ったり、不安を感じたりして不登校になってしまいました。「それほど実力を持っていないから怖いなあ」、「まだ目標を見つけていないから怖いなあ」という恐怖と劣等感を抱いていました。

その結果、私はその「恐怖心」に負けて最後の一步を踏み出さずに転んでしまったのです。卒業証書ではなく、退学通知書を持って就職したなんて、華麗な社会人デビューでしたよね（笑）

実際に社会に出てみると、それほど実力を持っていないということは？

残念ながら事実でした——社会人になると慌ただしさもありますし、ミスばかりをしてしまい、嫌になる日々もありました。でも、足りない部分は何でしょうか？あとどれくらいでより良い結果に近づくのでしょうか？一度進んでみないと分からなかったということも事実でした。いくつかの失敗を重ね、少しずつ自分を知りながら実力を身につけるように、いつしか自分は失敗から逃げるより、失敗から学んで次のチャレンジの結果を知りたいという気持ちになってきました。

では、もう一度自分のために大学を卒業してみたら？十年も掛けて、やっと正直に自分と向き合うことができた私は、再び元の大学に入学しました。

今度こそ、私は本当にその「恐怖心」を卒業することができました。

もし、私より早く卒業した方がいらっしゃいましたら、先輩と呼ばせてくださいね。

今スピーチを聞いてくださっている皆さんは、どんな留学生活になるのか。

想像したことはありますか？

将来は分からないからこそ、たくさんの可能性があります。　たとえ「失敗」したといえども、その「失敗」は可能性の一つだけではないでしょうか？

想像通りにうまくいっても、多少期待外れなことがあっても、皆さんはその未知なる一歩を踏み出してここに集まって日本語を学び、またそれぞれの旅に出ているのではないのでしょうか。　間違っただ道を選んでしまった、全く無駄足を踏んでしまったと思っても、あなたは進んでいます。　そもそも失敗と成功は分かれ道ではなく、同じ一本道の先に並んでいるのではないのでしょうか？

大丈夫。人生という道を歩くのは、誰も初心者ですから。　私、失敗したので、これだけは言えます――想像するより、まずはその一歩を、踏み出してみてください。

ご清聴、ありがとうございました。